

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第5区分

【発行日】平成17年7月14日(2005.7.14)

【公開番号】特開2003-205833(P2003-205833A)

【公開日】平成15年7月22日(2003.7.22)

【出願番号】特願2002-4821(P2002-4821)

【国際特許分類第7版】

B 6 0 T 8/52

B 6 0 B 35/18

F 1 6 C 19/18

G 0 1 L 5/22

【F I】

B 6 0 T 8/52

B 6 0 B 35/18 Z

F 1 6 C 19/18

G 0 1 L 5/22

【手続補正書】

【提出日】平成16年11月15日(2004.11.15)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 4】

又、前記ハブ本体13の中間部外周面で、上記外輪6の内周面に形成した複列の外輪軌道11a、11bのうちの外側の外輪軌道11aに対向する部分には、内輪軌道16aを形成している。更に、上記ハブ本体13の内端部に形成した小径段部17に、このハブ本体13と共に上記ハブ8を構成する上記内輪14を外嵌固定している。そして、この内輪14の外周面に形成した内輪軌道16bを、上記複列の外輪軌道11a、11bのうちの内側の外輪軌道11bに対向させている。これら各外輪軌道11a、11bと各内輪軌道16a、16bとの間には、それぞれが転動体である玉18、18を複数個ずつ、それぞれ保持器19、19により保持した状態で転動自在に設けている。尚、図示の例では、上記ハブ本体13の内端部で上記内輪14の内端面よりも内方に突出した部分を径方向外方に塑性変形させる事により形成したかしめ部20により、上記内輪14の内端面を抑え付け、この内輪14と上記ハブ本体13との分離防止を図っている。この構成により、背面組み合わせである複列アンギュラ型の玉軸受を構成し、上記外輪6の内側に上記ハブ8を、回転自在に、且つ、ラジアル荷重及びスラスト荷重を支承自在に支持している。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 0】

次に、図12～13は、やはり請求項2に対応する、本発明の実施の形態の第6例を示している。本例の場合には、保持リング32aの外周面の複数個所(図示の例では4個所)位置に平坦面部36、36を形成し、これら各平坦面部36、36に、それぞれ励磁部34、34を複数ずつ設けている。そして、上記保持リング32aの内径側にこれら各励磁部34、34を励磁する為の励磁コイル37を設けると共に、これら各励磁部34、3

4 の周囲に検出コイル 3 5 を配置している。上記励磁コイル 3 7 への電力供給は、車体側から無線により行なう。その他の部分の構成及び作用は、上述した第 5 例の場合と同様である。